



百間くら

《熊野三山》

紀伊山地の南東部にあり、それぞれ20～40キロメートルの距離を隔てて位置する「熊野本宮大社」「熊野速玉大社」「熊野那智大社」。何人にも優しく手を差し伸べ、温かく迎えてくれる場所、熊野。かつて、その豊饒にあずかると、京の都から往復約1か月の難行苦行の道のりを人々は歩き、「蠟の熊野詣」と称される一大ブームを巻き起こした。現在では、国道が整備され1日で熊野三山を参ることができ、多くの人々が手を合わせる姿に変わりはない。



和歌山現代鳥瞰図



日本列島の中心にあつてわが国最大の紀伊半島に位置する和歌山県。幾重にも重なり合う紀伊山地の山々、黒潮に洗われた変化に富む海岸線。時に厳しく、時に優しくこの地に生きる人々に様々な表情をみせてきた雄大な自然。和歌山・三重・奈良の3県に及ぶ広大な世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が誕生したのは、紀伊半島の自然がその姿を変えることなく見守り続けてくれたからだ。大自然への感謝を込めて、現代鳥瞰図を紹介しよう。



《高野山》

弘法大師空海が816年に真言密教の根本道場として開いた山上の聖地・高野山。およそ1200年の歴史のなか、様々に変化してきた高野山は今も117の寺院が密集した宗教都市だ。その証は、20万とも言われる死者の魂が眠る奥院の様相からもうかがえるだろう。一方、寺院を中心に発展した高野山には、明治時代以後、僧以外の生業の人も多数移り住んできた。多くの魂が眠る山上に、数多くの生命が日々呼吸する。まさに冥界と現世の交差点といえる。



舟見峠



熊野川(参詣道中辺路)



婦夫波



枯木灘



田原海岸



橋杭岩



円座石



白崎海岸



湍峡